

○議長（五十嵐健一郎君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答え申し上げます。

そのような申し出があったときにそういうふうに対応しているという状況でありまして、全員に対応しているかということ、まだそこまでには至っていないという状況です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

中村議員。

○13番（中村 実君）

インバウンドに合わせて、今後、外国人がどんどんふえてきますので、それに対応できるようにお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で中村議員の質問が終わりました。

暫時休憩します。

2時10分より再開いたします。

（午後1時57分 休憩）

（午後2時10分 開議）

+

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、古川 昇議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。〔16番 古川 昇君登壇〕

○16番（古川 昇君）

市民ネット21、古川 昇であります。

通告書に基づきまして、1回目の質問を行います。

1番、介護保険について。

2017年5月、国会において「地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律案」が成立をいたしました。自立支援・重度化防止に向けた保険者機能の強化、それから医療・介護の連携推進、地域共生社会の実現に向けた取り組みの推進となっております。高齢化が進む中で、一層の地域ケアシステム推進と介護保険制度の持続可能性を維持するために、保険者が地域の課題分析と高齢者が自立した生活を営むための取り組みを強化すること、また、医療介護ニーズの増加が見込まれることから、新たに介護医療院の創設、地域共生社会実現に向けて地域住民の課題発見力向上を図り、公的支援につなぐ体制づくりと福祉計画との連携が明記をされてお

ます。

第6期介護保険事業計画の重点施策の成果と課題を明らかにして、第7期に向けて、制度の充実と安心して介護サービスが受けられる体制づくりが求められていると考えます。

以下お伺いをいたします。

- (1) 高齢者人口の増加と要介護認定者の推移、在宅介護重点化の中で、居宅・施設サービスの充実にに向けた計画の進展についてお伺いします。
- (2) 重点課題の取り組み経過と現状把握、問題点の分析が明確に示されているのかお伺いをいたします。
- (3) 地域包括支援センターの介護予防・生活支援・包括支援業務等の展開と、今後求められる機能強化施策への運営体制の課題についてお伺いいたします。
- (4) 高齢者の自立支援・重度化防止に向けた保険者の取り組みと、財政的インセンティブ付与の考えについてお伺いをいたします。

2、認知症の取り組みであります。

厚生労働省の2015年の発表によりますと、認知症患者数は2012年時点で約462万人、65歳以上の高齢者の約7人に1人と推計をされております。MCI（軽度認知障害）と推計される約400万人を合わせますと、高齢者の約4人に1人が認知症あるいはその予備軍と言われております。国は、認知症施策推進総合戦略を策定して取り組みを進めてきました。今回の介護保険法の改正では、新オレンジプランの推進を国・地方公共団体の責務として加えております。認知症総合支援事業の取り組みについてお伺いをいたします。

- (1) 認知症ケアパスが作成・配付をされております。活用と取り組み施策、市民の受けとめ方や、また反応についてもお伺いをしたいと思います。
- (2) 認知症サポーター養成の取り組みの成果と地域支援へのつながりについてお伺いをいたします。
- (3) 認知症家族相談会の展開と、認知症の人と介護家族支援の取り組みの現状・課題についてお伺いをいたします。

以上で終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

古川議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、高齢者人口については29年度をピークに減少し、認定者についても年々減少していくと推計いたしております。

また、居宅や施設のサービス見込み料等の推計した上で、第7期事業計画を策定してまいります。

2点目につきましては、第6期事業計画では6つの基本目標を設定しており、第7期計画に向けてそれぞれの取り組み状況を評価し、問題点・課題の洗い出しを行っております。

3点目につきましては、地域包括支援センターは地域包括ケアシステムの拠点であり、引き続き介護予防を中心とした地域づくりを展開してまいります。

また、機能強化施策として、第7期計画の中で基幹型包括支援センターの設置を検討いたしております。

4点目の高齢者の自立支援、重度化防止の取り組みにつきましては、第7期計画の基本目標の1つとして位置づけていく予定であります。また、インセンティブ付与については、現在、国において検討されている評価指標によっては、調整交付金等への影響を懸念いたしております。

2番目の1点目につきましては、本年5月に認知症ケアパスを全戸配付をし、現在、地域包括支援センターなどの相談窓口において活用いたしており、今後さらに市民への周知に努めてまいります。

2点目につきましては、小学校や老人クラブ、事業所など幅広く養成講座を開講し、毎年約300人ずつふえ、現在3,376の方が認知症サポーターとなっております。今後はステップアップ講座を実施し、支援活動の中心となる人材を育成してまいります。

3点目につきましては、家族相談会の相談件数は減少傾向にある一方、個別相談の件数は急増いたしております。引き続き、地域包括支援センターを中心とする相談窓口や家族相談会の周知を図りながら、速やかに相談いただけるよう体制整備に努めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

2回目の質問に入ります。

この施設サービスというテーマで幾つか、何回かお伺いをしてまいりました。今回の、たしか2月だったと思いますが、アンケートが一般高齢者あるいは在宅介護をされている要介護者の皆さん、あるいは家族の皆さんにアンケートが行われたと思います。この中で結果として施設入所の申し込みをされた方、あるいは検討中というふうに回答された方、一般の高齢者の方々とそれからもちろん在宅介護されてるところであります。介護度別あるいは世帯別でどのような集計結果が出たのか、お聞かせをいただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋文明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋文明君）

施設の入所申請におけるアンケート結果ということでございますけれども、比較的軽度な要介護1・2の方の場合で35.4%、そして中・重度であります要介護3から5までの方につきましては41.5%の方が申請なり、申請中といったような状況でございます。

また、世帯の類型別ということでございますけれども、単身世帯の方がやはり多くて43.5%、夫婦のみの世帯の方で37.1%、その他の世帯の方で35.6%といった状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

数字としては検討中、あるいは申請も出されている、済みという方が結構、これは合計のほうだろうと思いますけれども、パーセンテージとしてはかなり多いということでもあります。そうしますと、施設入所を希望する介護者の課題、これをどういうふうにこのアンケート結果から受けとめたか、お話をお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋文明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋文明君）

今ほどパーセンテージのほう申し上げたところですが、この数字を見ますと同居世帯に介護者がいないような場合や介護者が高齢の場合について、やはり施設傾向といいますか、施設を希望される割合が高まるなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

この間、特別養護老人ホームにおける増床、あるいは新しい施設というところでは計画がほとんど出てこなかった状況であります。こういう結果を見ますと、かなりの皆さんが希望しておられる。あるいはそれに対する取り組みもありますので、必ずしもこの数字がということは私は考えておりませんけれども、充足あるいは増床の検討を、ぜひこれはお願いをしたいというふうに思っております。

それから、第6期の事業計画、施設計画の推移であります。これはこの3年間の間で施設、これは居宅、それから特別養護老人ホームもたしかショートからの転換というところも少しあったかと思うんですが、この計画それぞれ、あるいは実績、どのようになってこられたのか、その点についてお伺いしたいと思います。現在も計画であるものを含めてお話しをいただければというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋文明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋文明君）

この第6期の計画の期間の中でということで申し上げますと、まず特別養護老人ホームにつきましては、トータルの数字で申し上げますと計画で48床を見込んでいたところなんですけど、こちらは48床といったところでございます。また、通所介護事業者につきましては、16人といたようなところで考えていたところですけども、実績としては26人といたようなところになっております。

また、今現在計画かといいますか設計かといいますか、そういったところでは、グループホームが1カ所、それから通所介護事業所が1カ所といったような状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

特別養護老人ホームは、5期から6期に移ったというのを含めてのお話だったかと思います。かなりそれぞれ予定をしたのはグループホームもう1つあったかと思うんですが、これがなかなか手が挙がらなかったというところでお聞きをしております。

逆に、何らかの形で撤退を余儀なくされたというような事情、おありになったらお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋文明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋文明君）

撤退といえますか、廃止または休止といったような事業所になろうかと思えますけども、ショートステイにつきましては1事業所、それから訪問介護事業所につきましても1事業所、こちらそれぞれ廃止でございます。それから訪問看護事業所、それから居宅介護支援事業所、それぞれ1つの事業所ずつでございますが、こちらは休止という状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

それぞれ休止、廃止というふうにお伝えをいただきましたけれども、これの原因、非常に残念な結果になってるわけですね。せっかくそういうふうにして1つのサービスを提供していただいたというふうに思いますが、原因等々これはつかんでおられるのか。一番大きいのは人材の確保かなと思うんですが、それ以外でもこういうふうな結果を招いたその理由・原因、つかんでおられたらお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋文明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋文明君）

休止または廃止の原因ということでございますが、今ほど、議員おっしゃったとおり、いわゆる人材の確保が難しいといったようなことがございまして、いわゆる退職した、もしくは退職する人員の確保ができないといったようなことがやはり挙げられるかと思えます。そのほかに、当初考えていた収支が計画どおりに届かなかったといったようなことも挙げられております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

+

○16番（古川 昇君）

人材であります。これは介護あるいは看護、いろんなところがあるかと思いますが、今言われたように退職ということになりますと、これは当然出てくるわけでありまして、2000年から始まって約20年近くたってるわけでありまして、これからやっぱりそういうものが出てくるんだろうと思うんです。確かにそこにつないでいく若い芽が育っていれば、この人材というところでは、そう糸魚川市にとって痛手になることは恐らくないと思うんですが、何としても、また後でお聞きしますが、人材確保策、これを何とかしなければならぬという点で、また後でお聞かせいただきたいと思います。

在宅介護の充実、家庭で、あるいは地域でケアをする。この流れがずっと続いてきてるわけでありまして。先ほど言いましたように、在宅介護の維持・継続にどんな観点が重要であるのかというところが非常に大事なかなというふうには思います。これで今回のアンケート、ニーズあるいは聞き取り等々やったかどうかわかりませんが、アンケート調査の結果、見えてきたもの、こちら辺についてお伺いをしたいと思います。

一般高齢者の方々のところでありまして。生活状況は、これは持ち家が相当高い率で糸魚川市の場合はあるという状況は、これは過去に報告をいただいておりますけれども、自宅に住み続けたい、在宅希望の方々が糸魚川市、一般高齢者の方々、どれくらいの割合でいらっしゃるのか、あるいは住み続けたいという自分の気持ち、状態では、次の段階のものをどのようにお考えになっているのか、要は特別養護老人ホームとか、あるいは希望等とどのような形であらわれているのか、お聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋丈明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋丈明君）

これもアンケート調査の中からということになりますけれども、この調査の中では介護を受けながらも、その後、住みなれた自宅で暮らしたいという方の割合につきましては、大体8割程度になっております。

ただこの方々が、例えばこれは介護を受けながらもといったような数字でございますので、いわゆるその後も自宅で住み続けたいという希望だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

住み続けたいという方が約8割であります。要介護になれば住み続けたいというふうにも思ってもなかなかそうはいかないというところはあると思います。

ただ、そういう状態になっても住み続けるための生活環境の、これは条件としてはあるかと思えますよね。こういうものがあるんであれ、あるいは1つの例ですが、医療の観点にすれば、例えば自分がそういう医療を受けてるんだったら昼間あるいは夜間でも来てくれるというような看護体制があれば、私は住み続けられる。そういう条件がこの一般高齢者の中、どんなものがあつたのか、

もしわかるのであればお聞かせいただきたいと思います。その中で一番重要というふうに判断したのを行政でどのように受けとめたか、その点についてもお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋丈明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋丈明君）

ずばりそのものご質問に答える形ではないかもしれませんが、いわゆる自宅で介護されている方への質問の中で一番、何と申しますか、介護者が不安を感じる介護は何ですかという設問があったんですけれども、その中で一番不安を感じるというのが排せつ介助、それから認知症の介護というふうにお答えになってる割合が非常に高かったというところがございます。

そういった点では、今後も引き続き在宅で生活を継続していくためには、この排せつ、それから認知症、こういった部分の介護への充実と申しますか、そういったものが必要になってくるんだろうというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

介護されてる方は、こういう問題が一番大きいんだろうなというふうには思います。一般高齢者の方々、まだ介護に至っていない方々ですが、住み続けるためには、私の周りにこういった施設が合ったらいいというような意見が出されているのかどうか、例えば先ほど言いましたように医療あるいは買い物施設が近くにあったらなるべく自宅に自分の生活をしていける、居宅でやっていけるというふうなそういう皆さんが考えている施設等々どんなものがあったのか、お聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋丈明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋丈明君）

今ご質問のこういった施設があったらいいとか、こういうサービスがあったらいいといったような部分ではちょっと今資料を持ち合わせていないんですが、調査の中で確認できたのは、一般高齢者のうちの約8割がお元気で、日常生活に何ら支障のない方だということで、逆に残りの2割の方が閉じこもりですとか、あと転倒のリスクがあるといったような方でございました。いわゆるこういった部分への対応というのが課題となってくるのかなと思っております。

また、閉じこもりの理由の一番が、足腰の痛みというふうなものが訴えが多い状況にあります。そういった部分につきましては、痛みを起こさないように足腰を丈夫にする取り組みですとか、痛みと上手につき合うといったような方法の習得が必要かなというふうに考えております。そういった点では、いわゆるロコモティブシンドロームの予防の取り組みといったようなところかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

介護予防という観点では、皆さんどなたのところに関心をお持ちかということをお聞きしたいと思います。先ほど言いましたロコモということなんですが、これは6期の中で皆さんの足腰ですよね、ここのところをと、あそこでやられた一番低かったのが青海かな。それから糸魚川、能生という順番だったか、あるいは能生、糸魚川という順番だったかは忘れちゃけれども、今回のロコモに対する、あるいは介護予防とすれば運動というようなところでそれぞれ施策を打ってこられて、どういうふうなところ、皆さん運動に関心をお持ちなのか、ここのところをお聞かせいただきたいと思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋文明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋文明君）

一般高齢者の方の関心事といった点でございますけれども、特に介護予防に関心のある方につきましては、およそ8割で、女性については主に食生活の関係、それから男性については運動といったような状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

ここであと運動に非常に関心が高いという今お話でありますけれども、趣味や生きがいというのも個人が考えていく、1つは元気、あるいは元気な状態をつないでいくというのは大きな要素だったと思うんですが、こちら辺については皆さんのご意見としては、どんなものがあつたのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋文明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋文明君）

前回、第6期の計画策定時に趣味や生きがいがあるというふうに答えた方が78.8%といったような状況でございました。ただ今回、趣味ですとか生きがいといったようなことでお答えになった方が7割以下になっているという状況で、ここはちょっと私どもも全体的に介護予防とかに関心のある方が高まっている割には、ここが低いのはどうしてかなというのがちょっと疑問なところがございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

生きがいということになると非常に高齢者の方々、大きな要素になってくると思うんですが、これが下がってる。この原因は何なのかというのは、またこれ掘り下げてご検討いただければと思います。

それから、要介護者あるいは介護家族についてのアンケートのところでお伺いをしたいと思いません。

現在、この方々は、サービスを受けている。これは訪問なり、あるいは通所なりといろんなことがあろうかと思いますが、継続要件の中で一番の大きな希望、こういうものがされているんだから私はまだ続けていけるというような、そういう意見の中での条件、どんなものが挙げられていたのか、お聞かせいただきたいと思いません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋文明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋文明君）

今ほどご質問の、こういったものがあればまだ続けていけるといった部分でのお答えかどうかわかりませんが、先ほど私申し上げましたけれども、介護者が不安に感じる介護といったところで排せつの問題、それから認知症の問題といった部分がございます。そういった部分が何らかの形で支援ができるような部分があれば、比較的継続して取り組んでいただけるのではないかとこのように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

それぞれサービスの中でいろんなところがあろうかと思いません。

一つは、サービスを組み合わせるといっても大きな要素では私はないかなと思いません。1つのものを続けていくということだけではなくて、サービスのものを組み合わせる。あるいは訪問を受けたり、あるいは通所、そういうものを、その時々によって切りかえていくということがないとなかなか在宅でのケアを受け付ける、あるいは在宅で介護を続けるというのはなかなか難しいんじゃないかというふうに思います。今回のアンケートの中で、このところの要素をどういうふうに見るかというのを私一番大事だと思いますけどね。第7期の中で、要は地域で、もうなるべく施設ではなくて地域でという流れができてるわけですね。このところをやっぱり充実をして、あるいは皆さんの希望をきちっと受けとめた上で施策を打っていかないと、7期の中にぜひそういう考え方で施策を打っていただいたいというふうに思います。

それから、もう一つであります。介護者のそれぞれの意見をお聞きする中では、これは政府の重要政策であります。介護離職はさせないという点であります。こういう点からすると今、介護者の方々が働いてる方々、あるいはおうちにいらっしゃるという、条件いろんなことがあろうかと思いますが、働いてる方々がどういうふうな在宅介護でそれぞれの支障があるのか、あるいは今の働き方をずっと続けていけるのか、いろんな意見が出されていると思いますが、就労を続けていくためにはというふうなところで一番大きな要因、あるいはそれに続くようなもの、意見があったらお

聞かせたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋文明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋文明君）

現在、介護職場において、今後、引き続きその仕事を続けているということでございますけれども、恐らくそういった職場で介護されている方についてもご自宅に帰ると介護等の状況というものもあるかと思っておりますので、いわゆるそういった部分が解決されていくことが必要なのかなと思っておりますし、以前聞いた中の話では、いわゆる景気が悪くなって、一旦、介護職場のほうに就職をされたんですけども、景気がよくなってほかのところの募集とか出てくると、そういった職場に行かれるといった話も聞いておりますので、いわゆる待遇面での向上といったものも必要なのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

今お聞きしたのは介護離職、これは介護職の離職というお話であります。私の聞きたいところは、介護離職をさせないということでありまして、介護をなさっている家族の就労状況であります。働いてる条件、このまんま働いていけるとすれば、介護をしていくのに必要な支援、あるいはサービス、どのようなものがこのアンケートの中で示されたかということでありまして。あるいはそういうものからすれば分析が既にできているのであれば、その分析も合わせてお聞かせいただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋文明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋文明君）

大変申しわけございません。家庭で介護されている方の何が必要なかといったようなことでございますけれども、その辺のアンケート結果については、今ちょっと手元にないのでお話しすることはできません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

介護者の就労継続の見込みですよね、この今の状況の中で、これは政府を挙げて介護離職をさせないという取り決めをされているわけでありまして。そうしますと必要な支援というのは、非常に大事になってくるかと思っておりますので、ぜひこのところは、アンケートの中にあつたかどうかはわかりませんが、今の介護者、ご家庭で介護されてる方の就労を継続の見込み、あるいはもう苦しいんでこういう支援があればというような意見が出たのであれば、そのところの分析等々やっ

て施策に生かしていただきたいというふうに思います。

それから、施設サイドの課題としてお伺いしたいのであります。

これは先ほど所長言われましたけれども、施設の中での介護離職、介護職が離職をする。つまりやめてくということですよ、施設を。これが非常に高いというのと、もう一つは介護人材、なかなかこれは確保できないという二重の苦しみがあるということが私は聞き取りで、そういうお話を伺っております。この中では、日中ではパートさんを厚くして、泊まりですよ、夜勤・泊まりは正社員が担う。だけど、そういうふうにしてばかりはいられないということでありまして。日中でも責任とらなければならないんで、正社員もそこに入れなければパートさんだけではやっていけない。こういうものからすると、非常に今の施設の中の混乱状況、こういったものを行政がどのように把握をされているのか。これは今の介護の事業所の会議の中で、これは違う内容で持たれてるのかもしれないけれども、介護人材の不足という点からすれば、やっぱり事業所の会議の中でも全体で行政はこういう問題を把握していく必要があると思いますけれども、この点について今までつかんでいるところあればお聞かせいただきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋丈明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋丈明君）

平成28年11月に介護事業所に対して調査を行っているんですけども、その時点で直近1年間で離職した方の、正規職員の方なんですけれども、55名の方がいらっしゃったといったところでございます。

ただ、残念ながら退職した方に、何で退職するんですかということとはちょっとお聞きできないので、その辺の理由ですとか背景までというのは、ちょっと把握をしていないわけですが、今後、事業所等へも聞き取りを進めながら連携を図って行って、有効な離職をしないための手だてというのは考えていかなければいけないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

やめる方も結構な人数の方がいらっしゃるということでありまして。

それから、介護人材の確保ということになりますと、1つは高校生の皆さんが介護職を目指すという動きがあるわけでありまして。今までも介護に関する大学、あるいは専門学校、随分できてまいりました。この8月に新聞報道されましたけれども、この5年間で入学者が半減した。つまり四百数十人おった者が二百何人にことし下がってしまったという報道がありまして、大変ショッキングな報道でありました。

糸魚川市は高校生の介護の進学者数、これはこの5年間ぐらいで見た場合、私はそんなに減ってはいないと思っています。減ってはいない。

ただ、多くはないとは思いますが、糸魚川市は今、介護に進学された方々、どういうふうな把握をされてるのか。これは奨学金とか等々でわかるかなと思うんですが、どのような状況、推

移だと判断されておりますか、お聞かせ願います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋文明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋文明君）

高卒者のみということではないんですけれども、私ども平成27年度から修学資金の貸与事業と
いうのをやっております。その数字で見ますと、ほぼ横ばいかなといったところで、平成27年度
ではスタート時点でしたので2件と、この貸与事業の実績ということでいうと2件というところで、
平成28年度では6件、今年度は3件といったような状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

私お聞きしましたら、白嶺さんこの5年間で26人の方が進学されてます、短大へ1人含めてで
すけど。そうすると今言われましたけれども、修学資金の問題もあります。先生もこの点を指摘
をするんでありますが、2年後、進学した生徒が戻ってきていない、戻ってきていない実態がある
ようだというふうにおっしゃっておられました。

今言われましたように、糸魚川市の施策として奨学金、この制度を設けています。あるいはキャ
リアアップのために受ける試験等々に補助されておりますけれども、この高校生が向かった先、あ
るいはそこから卒業して戻ってきていないということからすると、この奨学金制度、本当に有効な
のかどうか、私は掘り下げて考えてみる必要があると思うんですよね。別の支援の形があるんであ
れば、あるいはそこに手だてをするものがあれば、私は本当に真剣にやってみる必要があると思
います。3年間ぐらいですから、そう大きなものはないとは思いますが、こういう点について
行政はどのようにお考えかお聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋文明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋文明君）

この修学資金の貸与事業でございますけれども、27年度、それから28年度で卒業した方は
3名いらっしゃいます。この3名とも市内の介護事業所に就職しているといった状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

人数的にはもっと行ってると思うんですが、戻ってこなかった原因、そのところを掘り下げた
かということでもあります。再度、お聞きいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋丈明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋丈明君）

こちらの数字につきましては、あくまでも修学資金を貸与した方で、27年度、28年度に卒業した方が3名、この3名の方が全て市内に就職されているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

岩崎市民部長。〔市民部長 岩崎良之君登壇〕

○市民部長（岩崎良之君）

人材不足という、医療も介護も同じように人材不足でございまして、この間、上越のほうで医師の集まりがある中で、やはり看護師関係ですとやっぱり卒業してすぐ、やはり東京のほうへ勤めってしまう方が多いという、東京への憧れが強いというのが大きい悩みだと聞いておりまして、やはり介護につきましてもそのような傾向があるんじゃないかというふうに思っています。

そのような中では、今、高校生の修学資金をやっておりますが、やはり小中学校から介護とか医療に対する理解が必要ということで、県とも連携しながら、福祉・医療関係者と連携しながら出前講座等をする中で、医療・介護への子供さんへの理解を深めていただくような取り組みも今進めております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

多分、介護の中でもそういう何らかの事情があるんだろうと思います。

今、私申し上げましたように進学するまでは非常に関心が高いのでありますけれども、進学した後どういうふうにフォローされているのか、こういう点も私大変気になるところでありまして、行った先の方はどうにかせえという話でもないんですけども、一つはフォロー、何か施策として考えておくべきではないかなと思うんですね。糸魚川とつないでおくということであります。相手にとって迷惑かどうかわかりませんが、施策としてはやっぱり考えてみる必要があるんじゃないかと思いますが、いかがお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋丈明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋丈明君）

フォローというところに関しましては、やはり一つは情報提供ということがあるのかと思います。いわゆる学校へ行ってる間に糸魚川がどのような状況なのか、どういった就職口があるのかといったような情報提供をしていくことが一つかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

今のところも大変大事なかなと思います。糸魚川に就職した方々は、あれ5月ごろでしたか、皆さん就職したばかりの方、集まってもらって何かやっていますよね。ですから、離れた方にやっぱり応援の手紙みたいなものは私考えられないかなと思うんですよ。糸魚川の状況はこうだよ、もう帰ってきてくれっていったのが見え見えみたいなものが届けば、それもまた大変なことになるわけがありますので、頑張れというような、まずそここのところは励ますような、そういうフォローの仕方はないのかなというふうにも思います。もし、皆さんのほうで、これ検討してやれるということになれば、ぜひやってもらいたい。

それから、高校生ということになりますと、一つは、私、3年前ぐらいだったと思うんですが、クレイドル焼山さんが高校生を雇って、キャリアアップをしてもらって、介護の福祉士等々を目指してもらおうというような取り組みをされてるというのを私は聞いたところであります。ことし調べてみましたらやっぱり数は、人数はそう多くはないんですが、5人ぐらい糸魚川の市内に就職される方がいるようであります。この流れはやっぱり私は大事にしていきたいと思うんですよね。この情報を行政のほうではつかんでいらっしゃるでしょうか、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋丈明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋丈明君）

事業所にお伺いする中で、いわゆる資格を持たない高校卒業生をとってるというお話はお聞きはしております。ただ、今、議員おっしゃったように、ことし何名だったかといったようなところにつきましては、そこまでは把握をいたしておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

大事なところであります。糸魚川に残るという大目標も、行政としては掲げているわけでありませぬ。特に、言うなれば介護のところ就職をして頑張ろうという高校生の方であります。ぜひそこは、つかんでおいていただきたいというふうに思います。

私は糸魚川市で何人かいらっしゃるということなんですが、その方々をどういうふうに支援をしていくかということもやっぱり考えていただきたい。これは個人の努力、あるいは事業所の取り組み等々に任せるのではなくて、そういう方々と一緒になって、今入った高校生、この方々をどういうふうにキャリアアップをしてもらおうような、糸魚川市としてシステムみたいなのはつくれないのか。合同して何かをするとか、事業所にそういうものをきちっと話をして、どういうところでお手伝いができるんだというようなところは私はやっていただきたいと思うんですが、お考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋丈明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋丈明君）

いわゆる資格のない方が事業所内でキャリアアップを図るといったことにつきましては、現在、介護人材育成支援事業という事業で、資格試験の受験料、それから研修受講料の補助を実施して、そういったキャリアアップを支援させていただいてるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

それから、6期の中の目標、6項目あったわけではありますが、この中でそれぞれ行政のほうで評価をされているというふうに思います。高齢者の健康づくり、ここに関しては、行政はどのような評価をされたのか、お聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋丈明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋丈明君）

第6期の基本目標の一つの高齢者の健康づくりといったところでございますけれども、これにつきましては、第5期から比較いたしますと認定率の減少、それから要介護5という重症の方の減少、それからロコモ度の改善というものが見られたといったところがあります。

一方で若い年代からの重症化予防の展開、それから総合事業の実施、予防活動強化の地域展開、こういったものが不十分だったというふうな評価をいたしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

運動習慣の定着というのも大きな目標だったわけではありますが、ここについてはどんなふうな評価をされたんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

岩崎市民部長。〔市民部長 岩崎良之君登壇〕

○市民部長（岩崎良之君）

運動習慣につきましては、健康増進の中で地区運動教室とかを行う中で、地区運動教室につきましても、毎年一、二カ所、開催地区を拡大する中で受けていただく方がふえておりますし、受けていただく方の地区運動教室は、特に70近い方が受けていただいておりますし、そのようなものや、ほかにあとGEO体操とかそういうようなものを取り組みながら運動習慣は定着するように努めてきております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

幾つか、6項目でありますのであるんですが、生活支援サービスの充実という点についてお伺いをしたいと思います。

これの中では具体的にどのようなことがなされ、どのようなことがこの6期の中で進んでいなかったのか、これは明らかにされているというふうに思います。これの評価も含めて生活支援サービスの充実のこの点について幾つかお話をお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋文明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋文明君）

生活支援サービスの充実につきましては、緊急通報装置ですとか、おでかけパス、こういったものの利用者が拡大をいたしております。

また、地区の見守り体制の強化もできたというふうに捉えておりますので比較的、私どもとしては、よい評価というように捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

それから、生きがいに関して言いますと、大きな取り組みでありました、ほっこり館であります。これが当初の目的のところはどういうふうに今推移をしているのか、現状を含めてお話をいただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋文明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋文明君）

ほっこり館につきましては、平成27年10月末だったと思うんですけども、高齢者の通いの場と、そういったものの一つとして開設をいたしたわけでございます。こちらにつきましては、いわゆる食事を中心として、高齢者らが通ってもらうことによって元気になってもらうといったようなものを主体に取り組んできたところです。ただ、今、手元に数字のほうを持ち合わせておりませんので、これがどういった状況になったかというのはちょっとここでは申し上げられません。申しわけありません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

そこのところも非常に大事、今の青海地区の近隣の方々、この方々の生きがいも含めて回りをどうするかという課題も大きな課題としてあったわけでありますので、ぜひそこは分析をしてもらいたいというふうに思います。

それから、総合事業のことについてお伺いをしたいと思います。

総合事業で相当、あるいは軽いところ、あるいは短期集中のところに移った方いらっしゃると思います。これが要支援1・2の方々が、この29年度の結果でいいますと135人下がっているんですね。この135人の皆さんは、要支援の認定は、これは外れたんですか。それとも今、認定そのまま持っているということなんでしょうか、その点をお聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋文明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋文明君）

要支援のほうは外れておりますが、今ほど135人というふうにおっしゃったかと思うんですけども、その方々が全てというわけではないというふうに考えています。私ども28年度につきましては、全体としては135人という数字では出ておりませんので、全体の方が要支援を外れたということではないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

再認定をしなければ、当然これは認定にならないわけでありますので、それで2年かかる、あるいはそれ以上かかるというところは理解するところであります。今回の総合事業でありますけれども、介護予防の給付費がかかり過ぎる。ここのところを削減したいということで要支援者と、それからチェックリストの該当者、同じプールの中に入れていただいたわけであります。これで私は一時的には認定費用、あるいは介護費用は下がる効果は出るんだと思います。

しかし、一番大事なものは自立支援、あるいは重度化防止の取り組み、これの取り組みに支障が出ると、一気に私は費用が高騰するんじゃないかという危険性もはらんでるというふうに思います。つまり、それぞれの方々の自立への意欲、それから悪化はしない意欲をどう醸成していくのかということと、それを支える事業所の私はやる気を引き出す、ここのところは、私、今これから行政に求められている大きな課題だというふうに思うんですが、そこら辺のところの認識、お聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋文明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋文明君）

総合事業につきましては、議員ご指摘のとおりだと思っております。今現在、総合事業に移った事業というのは、いわゆる訪問系、訪問介護のサービス、それから通所のサービスといったところがございますけれども、そういった中で、どれだけ介護予防なり自立支援のための意欲の向上といったものができるのかといったところにかかっているのかなというふうに思っております。この辺につきましては、また事業者ともいろいろ話をさせていただく中で、なるべく介護度が落ちないようなことをしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

この行政の一番の問題、介護事業者の方々にこの施策をどういうふうに取り取ってもらって、そこに向かって事業を進めてもらうかというところは、これは行政、いわゆる保険者のやる気にかかっているというふうにも言われておりますので、ぜひお願いしたいと思います。

それからインセンティブのことについてお聞きをしたいと思います。

糸魚川市はこのインセンティブ、容認するんですか。情報によりますと今年の11月、全国の市長会、あるいは町村会長で容認できないという申し入れを行っているんですよ。私はこんなふうに差別をつけるということは私はよくない、容認してはいけないというふうに思いますけれども、その点についてのお考え、お聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋丈明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋丈明君）

今、財政的なインセンティブにつきましては、報道によると、いわゆる調整交付金を活用してとったようなことで報道されているところですが、今ほど議員ご指摘のとおり全国市長会においても国に対して、この部分についての要望をさせていただいているところですが、いわゆるインセンティブをするにしても調整交付金については活用することは断じてしてほしくないということでの要望をされておりますし、私どもも同様の考えであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

この調整交付金、そもそも成り立ち全く違うところであります。もともとは、これは別財源でという話があったのに経済諮問会議、これは何だかわかりませんが、その話がおりてきて、ここに来た。こんなことは私は認めてはいけないというふうには思います。差別はだめであります。

それから認知症のところに移りますけれども、それぞれ皆さんのところで取り組みがされて、認知症の方々の相談会、これが一つは曜日を変えて回数も減らしたということもあるんですけども、動きがちょっと出てきたというやに聞いております。現状どうなっているか、お聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋丈明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋丈明君）

今の相談会につきましては、以前は平日だったというところなんですけど、この相談会を隔月の土曜日に変えたところ、それまで昨年度は大体1回に対して1人ずつの参加だったというところが、1人から7人ぐらいの参加になったということで、いわゆる働く世代の方も相談に来やすくなった

のかなというふうに考えております。そういった点ではこういった取り組みを引き続き実施していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

この相談会、きちっとやっていただきたいというふうに思います。期待するところ大であります。それから、認知症のカフェの取り組みであります。

今、一斉にスタートしたんですが、取り組み自体が少しばらばらになってきたような状況を見受けられるんですが、行政として支援するには私はどうしてもやっていただきたいと思うんですが、その点についてお伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋丈明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋丈明君）

認知症カフェにつきましては、今年度3年目に入ろうかというふうに思っております。そういった中では、例えば参加者の固定化ですとか、なかなか事業所としても難しい状況なのかなというふうに思っております。

ただ、そういった中では、出張カフェといったような形で自分たちの事業所の中ではなくて、外に出て取り組んでおられるといったようなところもありますので、課題はあるんですけれども、そういった中で事業所の運営上、支障の範囲内で継続していただくことが必要かなと思っておりますし、私どもも側面的な支援はしていかなければならないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

古川議員。

○16番（古川 昇君）

広がり不足であります。場所の問題もあります。非常に問題を抱えてますので、支援をぜひお願いしたいと思います。

以上で、私の質問を終わります。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、古川議員の質問が終わりました。

本日はこれにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

〈午後3時11分 延会〉

+

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員

+

+

+